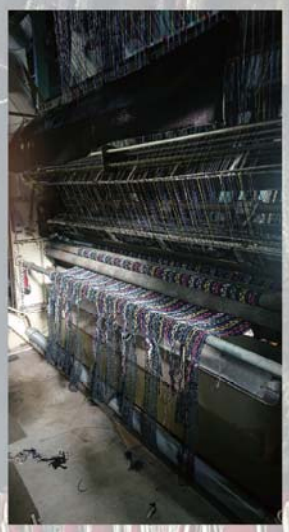
ラッセル編み　- RASCHEL KNITTING -

工場名　木玉毛織
氏名　　中川摩保

ラッセルはトリコットと比較するとゲージが粗く筬（ガイド）の左右の動きが大きい。
そのため、様々な柄を作ることが出来る。筬（ガイド）の枚数が多いため厚地の生地にすることもできる。
一方、レース・漁網などの目の透いた編地にも適し、一般的には厚地衣料用よりも後者の目の透いた用途の方が多い。

ラッセルの特徴である、「筬（ガイド）の動きが大きい」ことを利用した独特な柄の編み物を制作した。
織物・編み物たくさんのテキスタイルのを見て、経編の幅広く表現できる一種のアートに心が惹かれた。
その中でも他配色、独特の斜めを利用した柄が美しと感じ制作に至った。



この柄は、『「地緯」と呼ばれるグランドの黒糸の動き』『地緯の軸になるグランド黒糸のチェーン編み』の２つの動きでグランドが編まれている。
その上に柄を作る糸が３種類の動きをして柄を作っている。
これらの糸の動きを理解さた上で、細かく配色した。細かい波模様を作っている青と紺の糸は、ラメ糸と紺糸が隣り合うように配色した。
彩度が高い色で配色したため、ラメの隣に紺を配色することでまとまりを持たせた。

こちらも同じくラッセル編みである。こちらは、ラッセルの特徴である
「目の透いた編み地」を利用して、奥行きを出した。
黒の中にピンクのラメ糸をはわせることで、立体感を感じることができる。

経編の構造を理解することは容易ではなかったが、実際にテキスタイル試作をして
無限に表現できる可能性を感じた。

これは、編みつけを見に行った際、とても印象的だった「ガイドの動きを高さ調節するチェーン」
柄の編み地の編みつけのとき、少し不具合がありその修正をする作業を見ていた。
このチェーンで高さを変え、ガイドの左右に振れる動きをコントロールする。
このチェーン１つ違うだけで、全く違うものになってしまう。複雑な動きをする柄編みの
難しさを実感した。